

今年のさくら友の会の方向を話し合う。

司会さくら友の会が発足して7年、桜の維持管理作業、昼食、さくらえ桜研修旅行、バーベキューなどの年中行事も定着しました。シヤクナゲの小径、もみじ谷の整備など、手がけた事業も一つ一つ順調なようですが、今年はどういう計画でしょう。

### 高齢化問題

A 一見、順調なようにあるが、一つだけ課題が解決されていない。それは、高齢化という問題。ここ数年、ずっとその問題の出口を探して居る。

B それは本当。毎年平均年齢が一つ上がるようでは不安がある。

C 若者は大抵務めがあるから、日曜日には休みたいだろう。家族連れで参加するとなると、それ向きの作業を作らねばならない。

D その人達が、我々の活動の後を継ぐということには、すぐにはならない。

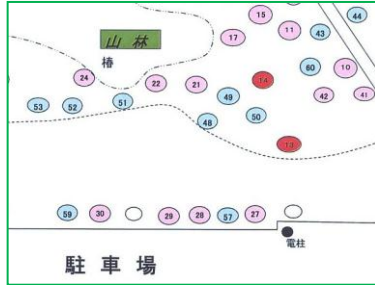
E 定年退職者が入ってくれば良いのではないか。それが自然だ。

F そういう意味では、そう悲観したものでもない。何人かそういう人たちが入会してきている。

司会それについては実際に毎年の会員の平均年齢を出してもらうことにして次の問題に移りましょう。

### 先頭集団と後続の差

C 維持管理部会は、昨年から作業部門と、管理部門とに分けた。今どう解決しようかと思っている問題は管理部門です。桜の樹の一本一本の位置を記入してある植栽地図を作成した。大変な労力だった。



た。今度はその一本一本の幹周りなどを計測して、成長記録を作製していこうとしている。

司会それは、膨大な作業になりますね。

C そこまでやる必要があるだろうか？それはもう、ボランティアの域を越えていると言え意見があつて二つに分かれている。

E 仕事の意味と価値が分からない

と、誰も積極的にはなれない。その仕事は後回しにする。すると、お尻をたたかれるようになるから、ますます面白くない。

C やる気のある人たちのやる気を殺いでもいけないし、かといって、重荷になると反発がでる。

B それは、慎重に扱わないといけないですね。

A みんな楽しみながらやれば良いが、無駄だと思



うと絶対駄目。マイペースでやるしかない。

C その人の性格にも依るのじゃないだろうか。植物の好きな人は、毎日黙々と水をやったり、虫を取ったり、面倒を見ている。気長に楽しみにして待つ能力がある。自分はそんな根気はない。すぐ結果が出るようなものでないとダメ。そういう人間も居る。

司会マラソンで一斉に

スタートした。互いに牽制しながら、走っていたが、そろそろマイペースで走りたくなって来た。先頭集団のスピードについて行けない人が出てくる。

他方、先頭集団でも、引つ張る人は脱け出そうとする。列が縦長になるのは自然なことかも知れない。

E 面白い考えですね。これは恐らくあらゆるボランティアグループで経験される共通の問題だと思う。

A 同じことを長くやっている人と退屈する。進歩や変化がないと衰退する。だんだん高度化、専門化する方向に行きたい人と、健康維持活動みたいな認識の人とがあるのは当然だろう。

B 両方あって良いのではない。専門化したい人は、同志を募って進めば良い。それもマイペースなのだから。そこからは、何か生産的なものが生まれるかもしれない。

D まずはまず高齢化が進む、これからの世の中は、シルバーパーワーの活用が、国の発展の鍵を握る。年金暮らしになっても、若者と競合しないところで何か有効な働きをしなければなら

ないと思います。A 人件費を考慮して採算に合わない基礎研究とか、ベンチャー企業の種になる研究とか。

F 福島の手抜除洗作業もあきれるが、あれなんかでも、こうすれば早く安く除洗ができるという方法を真剣に追求すれば、そういう面で先進国になれる。貴重な実践の場なのに、日本の信用を高めるのでなく、失わせてばかり居る。高濃度の放射性廃棄物の処理の方法を真剣に取り組んで確立すれば、世界の最先端を行くことができるのに。

C 我々が福島に行きますかね？(笑い)

G 行きましょか(笑い)

B 災い転じて福と為すということに目を向けるべきですね。

A われわれ、高齢者も大志を持つべきだ。小志でもいい。

E 年寄りの冷や水と言われますよ。

F 言われたついでに。食べさせて貰って自由に暮らすことができる我々が、若者が働ける職場を創出していかねければ、日本は確実に先進老衰大国になる。

A 深坂の森と桜だけでは勿体ない。

C 何かやらねば。

B 何か具体的な案はありますか。

F この近くにも休耕田が一杯ありますね。此れだけでも何とか生かす方法は無いものか。

A 休耕田は何かしたい

ねえ。

F 深坂に毎日出勤しても金にはならないが、農業なら多少とも金になるかもしれない。

C いやいや、持ち出しだらう。

司会Fさんは休耕田で何をしますか？

F 実を言うと、自分は赤大根の新品種を自分で開発して栽培している。赤松(セキシヨウ)と言う名前もつけた。味も良いので、皆がやるというなら、種子を提供してもいい。

C へえ、そんな具体案があるのですか？

B 一緒にやる人があればやってもよい。

C しかし、本来の維持管理活動はやって貰わないと困る。

A 深坂の森から出ると、手を広げすぎるといふこともある。それも、皆の意欲次第ではないだろうか。やろうと思えば、漁業、農業、大学、退役企業人、役所などで地域振興を考えていくことも出来る。

司会ここでも、先頭グループとマイペース組みと縦長になりましたね。まとめるのが大変ですね。一人一人はマイペースで、しかし、友の会は一つにまとまって皆が楽しくなければ長続きしませんね。皆様ご苦勞様です。今日は有難うございました。